

令和3年度 第2回 学校運営協議会まとめ

大阪府立泉北高等支援学校

- 【1】 実施日時 令和3年11月5日（金）午後3時30分～午後5時
- 【2】 実施場所 本校応接室
- 【3】 出席委員 田村 仁彦氏（元堺市立上神谷支援学校 校長） 協議会会長
八田 忠敏氏（元社会福祉法人コスモス理事長） 会長代理
井上 直子氏（堺市子ども相談所参事）
松林 利典氏（堺市障害者就業・生活支援センター センター長）
- 【4】 欠席委員 徳 和則氏（堺市立上神谷支援学校校長）
藤井 依子氏（大阪府立泉北高等支援学校 PTA 会長）

【5】 内 容

① 開会(教頭)

配布資料を確認

本日の協議会の成立を確認

② 校長挨拶

③ 会長・委員自己紹介

④ 協議

(1) 「令和3年度学校経営計画進捗状況等」について

校長より7月に示した計画について、委員の皆様からのご意見の抜粋を記載している。評価指標をお伝えした現状について進捗を報告する。

1 生活自立コース、社会自立コース、就労支援コースの教育課程等の充実を図る。

(1) 教育課程の改善

次年度からの学習指導要領が変わる。教育課程検討委員会を中心に、話し合いを進めているところである。全教員にアンケートを実施した。

様々な意見があった。生徒保護者のニーズ・生徒像、校務、教員の働き方と優先順位をつけて引き続き取り組んでいく。

(2) キャリア教育の充実を根本に改善をする。作業（週あたり6コマ）の時間を職業に位置付ける。生活自立コースの生徒にもキャリア教育の観点のをもつてシラバスを作っていく。進路の就労の指導とも合わせて内容を検討していく。

(3) 個別の教育支援計画、個別の指導計画等の充実を図る。

個別の教育支援計画を活用した自立活動の充実を図っている。観点別評価を行っていく。授業改革の手掛かりとしてWTで取り組んでいる。評価の在り方の意識を変える。授業、自立活動を変えていく取り組みをしていく。

2 支援教育力の向上

(1) 7月の委員会でPTA会長にもご意見をいただいたところである。

各学年、ケースごとに情報を共有し、指導会議を行って議論している。関係機関とも引き続き連携している。保護者からお叱りの声をいただくこともある。フィードバックして研鑽に努める。生徒支援をどのようにコーディネートしていくか、実践してく力をつけられるようになり意識している。成長した教員もいる。

(2) 各機関と連携している。地域支援も行っている。内部の充実があつてこそである。内のサイクル、外のサイクルを回すことが大切である。他校とも連携しながら進めていく。

(3) ICT研修を各学期に3回行う。GIGAスクール構想でタブレット端末が入ってきている。情報担当者がレクチャーを受けている。研修講師をお願いして、これからのICTに対応できるようペースアップして研修していく。充実したものにしたい。

3 安心で安全な学校環境づくり

(1) コロナ感染症については、保護者のご協力もあり、なんとか休校をせずに第5波を乗り切った。修学旅行にも行く予定。コロナ関連でのキャンセル料について、旅行社の保険で対応する予定。なんとか行事を本来の形に近い充実したものになるようお願いしている。

人権については、保護者より、ご指摘をいただくこともある。不適切な発言があつた時には謝罪とともに、教員間で共有して研修をしていく。子どもたちの心を大切にしていく。

(2) 防犯に対する意識を高めている。マニュアルの見直しを図っている。

(3) 生活指導マニュアルの見直しを行っている。自立活動の観点をもって生徒指導と融合していく。学校の社会性を問われており、規範意識を高めていく。触法行為や暴力行為などもあるが、自己肯定感を崩さずに取り組み、人権に配慮したものに改訂中である。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 教師1名がもつ業務量が増えている。遅くまで残る教員が固定化しており、校務の均等化を進める。校務分掌組織の改編も視野に入れる。今のセクションでやるのか、分割融合するのか、より効率的なチームを作っていく。1人1人の授業力を向上させることを含め、より効果的にすすめていく。

以上、徐々に形になりつつある状況である。

- 意見
- ・支援学校からの職場体験を受け入れる側の反応についてはどうか。
⇒採用につながらない場合もある。どのように、次の実習につなげるか、進路担当者が本人の適性を踏まえて取り組んでいる。
 - ⇒企業様とともにほぐくむ体制を作っていく。メリットを感じておられる企業様もある。普段の力を出す。普段の力が実習に出る。誠実に頑張るように送り出している。
 - ・どのくらいの期間、実習に行くのか。
⇒3年生になると2週間程度行く生徒もいる。
 - ・自立訓練の事業所について、第3の波と言われたこともあったと思うが、学びの期間を長くとりたいという保護者のニーズはあるか。
⇒ニーズが増えている。受け皿の事業所も増えている。
 - ・実習にいくにあたって、適性検査などはおこなっているのか。
⇒行っていない。
- 企業就労をするだけでなく、広い意味でのキャリア教育、社会の中で自分の役割を見つけていく。自信をもって役割を果たせるように。
- ・職場実習の目的がどこにあるのかが大切。挨拶、人との関係、職業生活的なものも必要。経験を積むことが大切。結果、どこができるか、できないか、どこに合理的配慮が必要なのか、特性からくるものなのか、経験不足からくるものなのか。学校の中で評価できるのかを考えた上で、学校の中で修正できる事は授業にもどして練習していく。つながりの中で実習していくことが非常に大切。目的も含め、本人に伝えていくことが大切。就労可能かは、スキルアップの能力、企業の受け入れ力、地域の制度法律も含めた受け入れ力が必要。どれか1つでもゼロではいけない。トータルをみて就労支援をおこなっていかなければならない。18歳だから就労する、ではない。
- ⇒教員の専門性、コーディネート力が必要。企業の診断から授業にサイクルとして回していく。
- ・働くことはしんどいこと。だけど、給料がもらえる。バランスをとりながら。就職した子どもさんが給料をもちかえることで、ご家庭内で

の評価も高まる場合もある。経験不足の子どもたちに、どう説明してチャレンジしていくかが難しいところ。働き続けることが大切。働き続ける力をつけることが大切。

- ・お話を聞いて感じたこと、継続することが課題。いかに保護者とつながって、プログラムに乗っていただいて関係を保ち続けることが大切。落ちることもあるが、何が原因か、集まって話し合いをし、中断した結果を保護者にも子どもにも戻す。致し方ない時もある。しんどい時もあるがしんどいことを突き詰めていく。同じだなと感じて聞いていた。子どもたちは自分がある環境がすべて。本人は自分に助けがあるかわからない。社会に触れることで自分自身を見ることができると引き戻されることもあるが、継続してかかわっていく。大切にされているか、わかるように教育していくことが大切。
- ・校務分掌の再編を検討中とのこと、福祉分野でも遅くまで残って仕事をしている職員もいる。先生方の人数が増えて、担当する生徒数も減るとよいのと思う。ぜひ、ただちに改善されるものではないが、健康を損なわないようにやってほしい。先生方が元気でなければ、生徒も元気が出ない。

(2) 学校教育自己診断について

行事や部活動が再開された。生徒会の活動も活発になってきている。活力や明るさがアンケートの結果にでるとよいと考えている。次回にアンケートの結果をお示しする。

(3) その他

保護者からの意見書について、無しの旨を教頭から報告

⑤ 会長まとめ

- ・学校現場の多忙を痛切に感じる。中間地点の報告をいただいた。また年度末に総括した内容を聞かせていただきたい。先生が元気でないと、生徒さんにもよい影響がでない。元気が出るようなことをお願いしたい。

⑥ 校長より謝辞

⑦ 事務連絡 次回日程は1月28日(金)